

本渡もノイローゼ

危険なしと漁協声明

渡魚市場で扱う魚には水俣病の危険海域からとったものはない」と声明した。



水俣病の映画、テレビニュースがあつていらい本渡市では子供たちの間に魚に対する不安の声がひろがり、本渡市北小中学校では父兄たちが心配し十六日医師を招いて専門の立場から水俣病と魚の説明をきこうということになっているほ

どだ。魚市場はじめ鮮魚店、鮮魚行商人の売れ行きが目立って落ち、魚価も低落している。

十三日本渡農協では緊急幹部会をひらいて漁協長の松岡義昌氏から「トクゴトを言わねえよう。本

月平均二百五十万円の水揚げが

ことしに入ってから二百二十万円と一割五分落ち、また十一月は二割減、十二月に入つてその傾向が目立っており、この分だと四割減だという。市場の当局者は取り扱う魚は天草下島の宮野河内から牛深を回つて大江、下田、北は富岡、二江から東は御領、佐伊津の東シナ海と有明海の魚であり、水俣病の海域とは関係がない。これからも疑いのある地区の魚は入荷を拒否するといっている。

一方漁民のうちにも売れ行き不振のため天草島のうち不知火海の地先漁業をやっていた地区で

は操業を取り止めるような事態も出ており、十二日本渡の魚市場から御所浦村のえびす祭に魚を出荷するというような逆移出の現象まで出ている。漁協では誤解をときデマを一掃するよう市の有線放送で呼びかけている。